

2022年7月15日

日本共産党創立100年

しんぶん赤旗 2022年7月15日(金)

日本共産党 きょう創立100年 党の歴史は今に生きる力 発揮している 志位委員長が談話

日本共産党は15日、党創立100周年を迎えました。これに先立って、志位和夫委員長は14日、国会内で記者会見し、談話「日本共産党の歴史は、今に生きる力を発揮している——党創立100周年にあたって」を発表しました。



(写真) 記者会見する志位和夫委員長＝

14日、国会内

志位氏は「日本共産党の100年は、日本国民の利益を擁護し、平和と民主主義、自由と平等、社会進歩をめざして、その障害になるものに対しては、それがどんなに強大な権力であろうと、勇気をもって正面から立ち向かってきた歴史です」と語りました。

志位氏は、100年を貫く特質として、(1)どんな困難のもとでも、決して国民を裏切らず、社会進歩の大義を貫く不屈性(2)科学的社会主義を土台に、つねに自己改革を進めてきたこと(3)つねに国民との共同で政治を変えるという姿勢を貫いてきたこと一を強調。「それは、ただ過去の歴史の問題にとどまらず、今に生きる力を発揮しています」として、四つの角度から語りました。

第一は、日本国憲法に実った戦前のたたかいです。志位氏は、命がけで「国民主権」と「反戦平和」の旗を掲げた日本共産党の不屈のたたかいは、戦後の日本国憲法に実ったことを強調。いま多くの政党がロシアの蛮行に乗じて、軍拡・改憲の大合唱を行うなど、新たな「翼賛政治」の危険が生まれているもとで、今に生きる力を発揮していると述べました。

第二は、どんな国であれ覇権主義を許さないたたかいです。志位氏は、旧ソ連による干渉攻撃をはねのけ、自主独立路線を確立した党の歴史を語るとともに、“どんな国であれ覇権主義を許さない”という日本共産党の立場は、ロシアのウクライナ侵略や中国の覇権主義が深刻になるもと、何よりも世界でも異常な「アメリカ言いなり」の政治を根本からたたかううえで、いよいよ重要になっていると強調しました。

第三は、国民の共同の力で社会変革を進めるという立場です。志位氏は、1961年の綱領路線確立後、「国民共同の力（統一戦線）で社会変革を進める」との大方針を貫き、80年の日本共産党排除の「社公合意」など困難な情勢のもとでも発展させてきたこと、それがこの間の市民と野党の共闘の運動の開始など重要な成果に結びついたことを強調。「どんな困難があっても、国民共同の力で社会を変えるという党綱領の大方針を堅持して奮闘する」と述べました。

第四は、日本共産党が、社会変革の大目標として、社会主義・共産主義の実現を掲げ続けてきたことです。志位氏は「21世紀の今日、地球的規模での資本主義体制の深刻な矛盾が、気候危機の深刻化、貧富の格差の劇的な拡大など、誰の目にも明らかとなり、『この体制を続けていいのか』という問いかけが広く行われているもとで、資本主義を乗り越えて社会主義・共産主義を目指す党の立場がいよいよ重要になっている」と強調。発達した資本主義国での社会変革の豊かで壮大な可能性を述べつつ、『日本共産党』という名前を高く掲げて、新たな躍進を勝ち取るべく奮闘する」と決意を語りました。

志位委員長会見の一问一答から

なぜ100年続いたのか——党史を貫く三つの特質

日本共産党の志位和夫委員長が党創立100周年についての記者会見(14日)で行った記者団との主なやりとりは次の通りです。

一党創立100年は称賛に値するものだと思うが、なぜ100年続いたのか。

志位 「なぜ続いたか」というご質問に簡単に答えるのは難しいですが、一つの政党が、100年という年月をへて、生命力を保ち続けていることは、それ自体、重要な意義をもつ出来事だと思います。日本共産党の100年を貫く特質について、3点ほど申し上げたい。

どんな困難のもとでも国民を裏切らず、社会進歩の大義を貫く不屈性

志位 一つは、どんな困難のもとでも国民を裏切らず、社会進歩の大義を貫く不屈性です。

戦前、日本共産党は非合法のもとにおかれ、「国賊」「非国民」などと迫害を受けました。そのもとでも「侵略戦争反対」「国民主権」の旗を掲げて頑張り抜きました。

宮本顕治(元議長)さんが亡くなられたときに、評論家の加藤周一さんから、「宮本さんは反戦によって日本人の名誉を救った」という感動的なメッセージをいただきました。わが党のたたかいは、日本国民の全体にとっても、大事な意義をもつたたかいだったと思うんです。

戦後も苦しい時期は何度もありました。日本共産党の100年には順風満帆だった時期はひと時もありません。いつも支配勢力の攻撃や迫害にさらされてきた100年だったと言っても過言ではありません。それは日本共産党が日本の政治と社会を根本から変えようという志を持っていることの証しです。そういう政党だからこそ、風当たりも強く、そのなかで不屈に頑張ってきたというのが第1点です。

科学的社会主義を土台に、自己改革の努力を続けてきたこと

志位 第2点は、科学的社会主義を土台にして、つねに自己改革の努力を続けてきたということです。

1950年には、旧ソ連のスターリンなどによる干渉を受けて党が分裂したわけです。100年のなかでも最も深刻な危機に陥ったのがこの時期だと思います。

その時に、宮本顕治さんを先頭にした先輩たちが、自主独立路線を確立し、大きな自己改革をやった。

宮本さん自身も率直に話していますが、「戦後の一時期までは、ソ連のやることにはだいたい間違いがなかろう」とみていたが、

ソ連などによるひどい干渉を実際に体験して、自主独立で進まなければだめだ、日本の国の運動の進路は、自分の頭で考えて、自分たちで決めていく。大国の干渉はきっぱり退ける—ここにいかなくてはだめだという路線を確立したわけです。

この土台の上に、1961年の綱領をつくり、節目節目で、綱領路線を発展させてきました。

ジェンダー平等は、2020年の綱領一部改定で書き込んだ大事な命題です。この問題でも、私たちは自己改革が大切だと大会でも強調し、みんなでその方向で努力しようと確認したんです。この問題での大会にむけた全党討論のなかで、わが党が過去の一時期、「赤旗」に掲載された論文などで、同性愛を性的退廃の一形態だと否定的にのべたことについて、きちんと間違いだと認めてほしいという意見が出されました。そうした討論を受けて、大会の結語で、これは間違いだったと明確に表明し、反省を述べました。

よく“共産党は誤りを認めない”“無謬(むびゅう)主義の党”だという批判がありますが、それは事実とまったく違います。事実と道理にそくして過去の誤りに対して誠実に正面から認め、自己改革の努力を続けてきた党だということをぜひ知っていただきたい。

どんな情勢のもとでも国民との共同で政治を変えるという姿勢を貫く

志位 第3点として、私たちは一党一派で政治をするという立場ではありません。つねに国民のみなさんとの共同で、当面する一致点を大事にして協力する。私たちは「統一戦線」と呼んでいますが、国民との共同で政治を変えるという姿勢をどんな場合でも貫いてきました。

1960年代から70年代は、革新自治体など、共産党と社会党が中心になっての革新勢力の共闘が発展し、これを大いに追求しました。

その後、1980年に「社公合意」が結ばれ、「共産党を除く」体制がつくられた。この困難な時期にも、統一戦線をあきらめず、「日本共産党と無党派の方々との共同」という方針を打ち出し、革新懇運動を発展させ、こうした努力が、2015年以降の市民と野党の共闘の発展にもつながりました。

現在、市民と野党の共闘は、いろいろな妨害や困難に突き当たっているのも事実ですが、切実な一致する課題で、国民との共同で、統一戦線の力で政治を前に進める、この立場をどんな情勢のもとでも堅持し、発展させてきました。この立場は今後も断固として貫きます。

「なぜ100年間続いたか」という問いに対しては、いまあげたわが党の三つの特質を答えとしてあげたいと思います。不屈性、自己改革、国民との共同—これらの特徴は、今後の100年を展望しても、将来にわたって貫いていきたいと考えています。国民の願いにこたえた運動にとりくみ、強く大きな党をつくりたい

—今後、党勢をどう立て直していく考えですか。

志位 国民の願いに応えたいいろいろなたたかい、運動に力を入れていきたい。憲法問題は差し迫った課題ですが、暮らし、民主主義、ジェンダー平等、気候危機の問題など、国民のなかでの多面的な運動を発展させるために貢献していきたい。

それから、現に国民のなかにはさまざまな運動がありますから、そうした運動に、私たちが連帯し、参加していきたい。国民の願いに応えた運動を発展させていくことが一つの大きなカギになってくると思います。

その運動のなかで、日本共産党の党員を増やし、「しんぶん赤旗」の読者を増やし、民青同盟というともにたたかっている若いみなさんを大きくしていくという取り組みを成功させるために、力をつくしたいと決意しています。

“たたかいながら自力をつけていく”ことに正面から挑んでいきたいと思っています。

しんぶん赤旗 2022年7月15日(金)

日本共産党の歴史は、今に生きる力を発揮している —党創立100周年にあたって 幹部会委員長 志位 和夫

日本共産党の志位和夫委員長が14日の記者会見で発表した「日本共産党の歴史は、今に生きる力を発揮している—党創立100周年にあたって」は次のとおりです。

日本共産党は、7月15日に、党創立100周年を迎えます。今日、100周年を迎えることができたのは、多くの先輩たちの奮闘に支えられたものであり、また、わが党を支持・支援してくださった多くの国民に支えられたものです。私は、そのすべてに対して、心からの感謝を申し上げるものです。

不屈性、自己改革、国民との共同—100年を貫く特質

日本共産党の100年は、日本国民の利益を擁護し、平和と民主主義、自由と平等、社会進歩をめざして、その障害になるものに対しては、それがどんなに強大な権力であろうと、勇気をもって正面から立ち向かってきた歴史です。

どんな困難のもとでも、決して国民を裏切らず、社会進歩の大義を貫く不屈性。

科学的社会主義を土台に、つねに自己改革を進めてきたこと。つねに国民との共同で政治を変えるという姿勢を貫いてきたこと。

これらは、わが党の100年を貫く特質だと考えます。

それは、ただ過去の歴史の問題にとどまらず、今に生きる力を発揮しています。私は、とくに四つの点をあげたいと思います。日本国憲法に実った戦前のたたかい—「翼賛政治」の危険のもとで今に生きる力

第一は、日本国憲法に実った戦前のたたかいです。

日本の政党のなかで、戦前・戦後を一つの名前で通している政党は日本共産党だけです。それには理由があります。太平洋戦争に向かう時期に、他の党はすべて自らの党を解散して、「大政翼賛会」に合流し、侵略戦争を進める立場にたちました。そのために戦後の再出発のさいに名前を変えざるをえなかったのです。

この暗い時代に、日本共産党は、文字通り命がけで、国民主権と反戦平和の旗を不屈に掲げてたたかいました。多くの先輩たちが迫害で命を落としましたが、わが党の主張は、戦後の日本国憲法に、「政府の行為」によって戦争をひきおこしたことへの反省と、国民主権が明記されたことによって、実りました。

戦前のわが党の不屈のたたかいは、いま多くの政党が、ロシアの蛮行に乗じて、「軍事力増強」「憲法9条を変える」の大合唱を行うなど、平和と民主主義を壊す「翼賛政治」の新たな危険が生

まれているもとで、今に生きる力を発揮していると考えます。

日本共産党は、100年の歴史に立って、平和と民主主義を壊す逆流と正面からたたかい、これを正面から打ち破り、日本の希望ある前途を開くために全力をあげる決意を表明するものです。どんな国であれ覇権主義を許さない——この歴史は今日いよいよ重要になっている

第二は、どんな国であれ覇権主義を許さないたたかいです。

100年の歴史を通じて、わが党の最大の危機は、戦後、1950年に、旧ソ連のスターリンなどによって、日本共産党に対する乱暴な干渉が行われ、党が分裂するという事態が起こったことにありました。

日本共産党は、この危機を乗り越える過程で、自主独立の路線——自らの国の社会進歩の運動の進路は、自らの頭で考える、どんな大国でも干渉や覇権は許さないという路線を確立しました。これは党の分裂という最悪の危機から教訓を引き出して、わが党の先輩たちがなしたげた巨大な自己改革であり、自主独立の路線の確立なしに、今日の日本共産党は存在しえなかったといっても過言ではありません。

1960年代には、旧ソ連と中国・毛沢東派の双方から無法な覇権主義の干渉が行われましたが、日本共産党は、そのどちらもきっぱりとはねのけ、旧ソ連・中国の双方に干渉の誤りを認めさせました。世界のなかで、二つの大国の党にその誤りを認めさせた党は、日本共産党以外には存在しません。

わが党は、旧ソ連によるチェコスロバキア侵略やアフガニスタン侵略など覇権主義に、「社会主義とは無縁」と厳しい批判をつらぬきました。1991年にソ連共産党が解体したさいに、「もろ手をあげて歓迎する」との声明を発表しましたが、こうした声明を発表した党も、世界に日本共産党一党といっても過言ではありません。

どんな国であれ覇権主義を許さないというわが党の立場は、今日、ロシア・プーチン政権がウクライナ侵略という野蛮な覇権をふるっているもとで、また、中国の覇権主義がさまざまな面で深刻になっているもとで、いよいよ重要になっています。

覇権主義をきっぱり拒否する立場は、何よりも対米関係においてきわめて重要です。日本の政治は、在日米軍に異常な特権を保障している日米地位協定に象徴されているように、世界のなかでも異常な「アメリカ言いなり」できわだっています。「日米同盟の強化」の名で、憲法9条改定、自衛隊の海外派兵の動きが進められるもとで、従属の根源——日米安保条約を国民多数の合意で解消し、対等・平等・友好の日米関係をつくることを日本改革の中心課題にすえている日本共産党の立場は、いよいよ重要となっています。

わが党は、覇権主義とのたたかいの経験を踏まえて、2020年の綱領一部改定で、「どんな国であれ覇権主義的な干渉、戦争、抑圧、支配を許さず、平和の国際秩序を築くことを明記しました。わが党は、この立場にたって、国連憲章にもとづく平和の国際秩序をつくるために全力をあげる決意を新たにします。国民の共同の力で社会変革を進める——この大方針を堅持して奮闘する

第三は、国民の共同の力で社会変革を進めるという立場です。

1960年の日米安保条約改定に反対する国民的大闘争をへ

て、1961年に採択された党綱領は、選挙による国民多数の合意で社会変革を進めること、社会の発展のすべての段階で、国民の共同の力（統一戦線）で社会変革を進めることを大方針にすえました。

この方針にもとづく奮闘で、1960年代～70年代には、東京、大阪、京都など、全国各地に革新自治体が広がり、一時期は、日本の総人口の43%が革新自治体のもとの暮らしになりました。

この流れを断ち切ったのが、1980年に、社会党と公明党の間でかわされた日本共産党排除の「社公合意」でした。日本共産党を政界から排除し、その存在をないものかのように扱う「反共の壁」がつくられました。

こうした困難な状況のもとも、わが党は、「日本共産党と無党派の方々の共同」という方針を提唱し、日本の社会進歩を求める団体、個人とともに革新懇運動にとりくみ、国民の共同の力で日本の政治を変えるたたかいに、粘り強くとりくみました。

日本共産党排除の「反共の壁」がつくられた時期は、国民の暮らし、平和、民主主義が大きな被害を受けた時期ともなりました。経済政策では、弱肉強食の新自由主義が、労働、社会保障、税制などあらゆる分野に持ち込まれ、日本を「賃金が上がらない国」「経済成長ができない国」にするという矛盾が深刻になりました。外交・安保政策では、自衛隊の海外派兵が進められ、2015年に強行された安保法制では、歴代政府が戦後一貫して「違憲」としてきた集団的自衛権の行使を可能にするなど、立憲主義・平和主義・民主主義の乱暴な破壊が行われました。

こうしたもと、2015年以来、市民と野党の共闘という新しい運動が開始されました。「反共の壁」が大きく崩され、この間の何度かの国政選挙では、初めての全国規模での野党共闘も行われ、重要な成果をあげました。

政権交代に正面から挑戦した今年の総選挙以降、市民と野党の共闘は、その前進を恐れる支配勢力の激しい攻撃、妨害に遭遇しました。今回の参院選では、共闘は限定的なものにとどまりました。

そのなかでも、沖縄選挙区をはじめ貴重な勝利をかちとり、共闘の灯を守ったことは重要です。東京選挙区で、若いみなさんをはじめとする自主的・自発的な市民の共同の力が発揮され、勝利をかちとったことは、たいへんにうれしい出来事でした。

日本の政治を変える道は、共闘しかありません。日本共産党は、これまでの7年間の共闘のとりくみをふまえ、この流れをどう発展させるかについて、市民と野党が胸襟を開いて話しあい、この運動の前途を開くことを心からよびかけます。

わが党は、どんな困難があっても、それを乗り越えて、国民の共同の力で社会変革を進めるという党綱領の大方針を堅持して奮闘する決意です。

社会主義・共産主義という大目標——資本主義体制の矛盾の深まりのもとの重要性

第四は、日本共産党が、社会変革の大目標として、社会主義・共産主義の実現を掲げ続けてきたということです。

日本共産党は、戦前、戦後を通じて、社会変革の条件に違いはありますが、資本主義の枠内で「国民が主人公」の日本をつくる民主主義革命を直面する課題としつつ、人類の歴史を資本主義で

終わりとする立場にたらず、資本主義を乗り越えて社会主義・共産主義社会を目指すことを、党の大目標として一貫して掲げ続けてきました。

この立場は、21世紀の今日、地球的規模での資本主義体制の深刻な矛盾が、一刻の猶予も許されない気候危機の深刻化、貧富の格差の劇的な拡大など、誰の目にも明らかとなり、「この体制を続けていいのか」という問いかけが広く行われているもとの、いよいよ重要となっていると考えるものです。

旧ソ連の崩壊、中国の覇権主義や人権侵害などをとらえた「社会主義否定論」は根強いものがありますが、これらの問題が起こった根底には、社会主義と無縁の暴政を行った指導者の誤りとともに、経済的發展でも、自由と民主主義という点でも、「遅れた国からの革命」という出発点の問題がありました。旧ソ連や中国の問題をもって、社会主義の未来を否定的に描くことは、成り立ちえない議論だと考えます。

高度に発達した資本主義国・日本で、社会変革の道に踏み出した場合には、このような誤りは決して起こりえないし、絶対に起こさないというのが、日本共産党の確固たる立場です。資本主義のもとで作りだされた自由、民主主義、人権の諸制度を引き継ぎ、発展させ、花開かせる——これがわが党が綱領で固く約束していることです。

人類の歴史のなかで、発達した資本主義国から社会主義の道に踏み出した経験はまだ存在していません。それは特別な困難性をもつとともに、豊かで壮大な可能性をもった、新しい開拓と探究の事業です。

日本共産党は、2020年の綱領一部改定で、ロシア革命以来の1世紀の世界の運動の歴史的総括を踏まえて、次の命題を書き込みました。

「発達した資本主義国での社会変革は、社会主義・共産主義への大道である」

この立場にたって、わが党は、21世紀を、搾取も抑圧もない共同社会への建設に向かう人類史的な前進の世紀とすることをめざして、力をつくします。

日本共産党という党名は、わが党のこの大目標と固く結びついた名前です。この名前を高く掲げて、新たな躍進をかちとるべく奮闘する決意です。

しんぶん赤旗 2022年7月15日(金)

主張 日本共産党100年 立党の原点 いま未来に向けて

日本共産党はきょう、1922年7月15日の創立から100年を迎えました。

この1世紀には、国民の利益擁護、反戦平和、民主主義、社会進歩をめざす立場を貫き、果敢にたたかい続けてきた歩みが刻まれています。どんなに困難な時代でも決して国民を裏切らず、いかに強大な権力に対しても正面から立ち向かってきた歴史は誇りです。

いま不屈のたたかひの到達点に立って、新たな未来に向け、幅広い国民と力を合わせて時代を切り開く決意です。

歴史を切り開いた不屈性

日本共産党が誕生した20世紀初頭は、国の統治の権限を天皇が握る専制政治の下にありました。国民の人権は抑圧され、言論

は厳しく取り締まられました。対外侵略も拡大されていった時代です。

主権在民・反戦平和を掲げることは文字通り命がけで、多くの先輩が命を落としました。今年公開された映画「わが青春つきるとも—伊藤千代子の生涯」は、治安維持法で逮捕され、権力による過酷な弾圧で命を奪われた若き女性活動家の足跡を描いています。

貧困を見て社会に矛盾を抱き、東京女子大で社会科学研究会に加わった千代子は、郷里の長野県の製糸工場の争議支援を行うなどして入党し、激しい拷問や卑劣な懐柔工作にも志を曲げず、24歳で亡くなりました。千代子の生きざまに心を揺さぶられる現代の若い世代も少なくありません。

激しい弾圧で35年に党中央の活動は中断せざるをえませんでした。しかし、獄中などで不屈のたたかひは続けました。

戦前、日本共産党以外の全ての党は自ら解散して40年に「大政翼賛会」に合流し、侵略戦争を推進しました。戦前・戦後を通じて名前を変えずに活動している日本の政党は、日本共産党だけです。このたたかひの先駆性は、戦後に制定された日本国憲法のなかで結実しました。

いまロシアのウクライナ侵略の暴挙に乗じ「大軍拡・改憲」を声高に叫ぶ「翼賛政治」の危険が強まっています。平和と民主主義を壊す逆流を打ち破るために、日本共産党は力を発揮しています。

戦後の歴史では、旧ソ連や中国から乱暴な干渉を受けましたが、それと果敢にたたかい抜き、どちらもはねのけました。どのような大国であれ、覇権主義を許さないたたかひを通じて、日本共産党は自主独立の立場を確立しました。この立場は、ロシアのウクライナ侵略が続く、中国の覇権主義の深刻さがあらわになる事態のもとで重要であるだけでなく、「日米同盟の強化」の名で異常なアメリカ言いなり政治が際立つ中で、いよいよ重みを増しています。

多くの国民と手を携えて

日本共産党がなにより大事にしているのは、国民の共同の力で社会を変える取り組みです。各地で公開中の映画「百年と希望」は、歴史を紡いできた日本共産党が若い世代などと広く結び活動する姿に注目したドキュメンタリーです。

日本の政治を変える道は、市民と野党の共闘を広げるしかありません。そのため奮闘を続けます。

創立100周年という大きな節目に、一人でも多くの方に党に加わっていただくことを心から呼びかけます。新しい歴史をともににつくっていきましょう。

野党共闘路線、道険し 進む組織弱体化—共産、15日結党100年

時事通信 2022年07月15日07時11分



共産党結党100年に当たり、記者会見する志位和夫委員長＝14日午後、国会内



共産党が結党してから15日で100年を迎える。反戦平和を堅持しつつ、天皇制や自衛隊を容認するなど現実路線へかじを切ってきた。だが、党勢はふるわず、組織の弱体化は進む。活路を求めた野党共闘路線の手詰まり感も否めず、展望は開けていない。

志位和夫委員長は14日、結党100年を前に記者会見し、「どんな困難も乗り越え、国民の共同の力で社会変革を進める」と強調。次期衆院選をにらみ、「日本の政治を変える道は共闘しかない」と語り、引き続き野党共闘路線を進める考えを示した。

同党は、1922年7月15日に非合法政党として結党。思想弾圧を受けたが、戦後に党を主導した宮本顕治元議長は国会で過半数を得ることで変革を目指す「平和革命路線」を打ち立て、定着させてきた。後を継いだ「党の理論的支柱」の不破哲三前議長は志位氏とともに、党綱領の全面改定に取り組むなど「現実・柔軟路線」を推し進めた。

2000年党大会の規約改正では「前衛政党」の表現を削除。04年の党大会では綱領を改定し、これまで否定してきた天皇制と自衛隊を当面容認する姿勢に転じた。

路線修正は無党派層の支持拡大を図る狙いもあったが、党勢は低迷。党員数は90年の約50万人をピークに減少し、20年には約27万人まで落ち込んだ。政党交付金を受け取っていない同党の活動資金を支えるのは機関紙「しんぶん赤旗」。その購読者数は80年に355万人だったが、20年には約100万人に転落した。

同党は大型国政選での野党共闘に活路を求めるが、昨年の衆院選では実を結ばなかった。敗北した立憲民主党は共産党との全面的な共闘をちゅうちょし、先の参院選では限定的な協力にとどまった。志位氏は会見で「課題を残した」と認めた。

共産党は、昨年の衆院選に続いて議席を減らしており、今後は野党内での発言力が低下するのは避けられない。党勢回復へ正念場を迎えている。

志位氏、議席減に「責任痛感」 辞任は否定—共産
時事通信 2022年07月14日 18時11分



記者会見する共産党の志位和夫委員長＝14日午後、国会内

共産党の志位和夫委員長は14日の記者会見で、参院選で改選議席から二つ減らす4議席にとどまったことに関し、「比例代表で議席と得票を減らしたのは責任を痛感している」と表明した。進退については「強い党をつくって次の選挙で勝っていく。中長期を展望して日本政治を良くしていくところで責任を果たしたい」と述べ、辞任を否定した。

共産党は参院選で改選6議席のうち選挙区で1議席を維持したものの、比例で2議席失った。志位氏は「地力を付けることに執念を持って取り組む」と強調した。

共産・志位委員長、続投に意欲 15日に創立100年
東京新聞 2022年7月14日 21時53分 (共同通信)



共産党創立100周年を前に記者会見する志位委員長＝14日午後、国会

共産党は15日、1922年の創立から100周年を迎える。志位和夫委員長は14日の記者会見で、平和と民主主義を目指し、時の権力と厳しく対峙してきたと強調。野党共闘が限定的となり、改選6議席から4に減らした参院選の責任を痛感しているとしながらも辞任は否定した。続投と、自らが主導しての党勢回復に意欲を表明した。

志位氏は創立100周年について「どんな強大な権力であろうと、勇気を持って正面から立ち向かってきた歴史だ」と振り返った。併せて、党名を変えずに今後も活動する意向を示した。

共産党創立100年 志位委員長、「この先100年もこの名前で」
毎日新聞 2022/7/14 19:40 (最終更新 7/14 19:41)



共産党が創立100年を迎えることについて

記者会見する志位和夫委員長＝国会内で2022年7月14日午後3時25分、竹内幹撮影

共産党は15日、創立100年を迎える。志位和夫委員長は14日、国会内で記者会見し、「平和と民主主義、社会進歩を目指して、どんなに強大な権力だろうと勇気を持って正面から立ち向かってきた歴史だ」と100年の歩みを振り返った。そのうえで今後について「新たな躍進を勝ち取るべく奮闘する決意だ」と抱負を述べた。

共産党は1922年7月15日に発足した。志位氏は会見で、治安維持法による「弾圧」を受けた戦前や、旧ソ連や中国共産党に従属しない「自主独立路線」を掲げた戦後の歴史を振り返った。党が存続してきた理由について、「どんな困難でも国民を裏切らない不屈性」を持ち、「常に自己改革を進めてきた」ためだと総括した。

党名について「私たちの理想、大目標と結びついた名前だ。こ

れから先 100 年も、この名前で戦っていくことになるだろう」と述べ、今後も見直す考えがないと強調。10 日投票の参院選で、路線の違いから野党間の選挙協力が限定的になったことについては「日本の政治を変える道は共闘しかない」との認識を示し、各党に粘り強く連携を呼びかけていくとした。

志位氏は 2000 年に委員長に就任。在任期間が 22 年近くに及んでいるが、「強い党を作って次の選挙で勝っていく。日本の政治を良くしていくというところで責任を果たしたい」と述べ、引き続き党のかじ取りを担っていく考えを示した。【古川宗】

共産志位氏、続投に意欲

産経新聞 2022/7/14 18:26

共産党は 15 日、党創立から 100 年を迎える。志位和夫委員長は 14 日、国会内で記者会見を開き、「強い党を作り、政治を良くすることで責任を果たしたい」と述べ、平成 12 年の就任から 20 年以上がたつ委員長続投に意欲をにじませた。党名を堅持する意向も示した。

志位氏は会見で「(続投の有無は) 党大会が決める」と指摘。「無我夢中でやってきた。長いか短いかは皆さんの評価に任せたい。次の世代もたくさん育ててきている。道は開いてきたと思っている」とも語った。

議席を減らした今回の参院選については「責任を重く受け止める」と述べつつ、野党共闘の必要性を強く訴えた。

日本の共産党はコミンテルン(共産主義インターナショナル)の「日本支部」として大正 11(1922)年に誕生した。

共産党創立 100 年 「現実路線」はいばらの道 自衛隊「活用」掲げても他の野党から距離置かれ…

東京新聞 2022 年 7 月 15 日 06 時 00 分

共産党は 15 日、創立から 100 年を迎えた。節目の年に臨んだ先の参院選では党綱領に基づき、違憲の存在としている自衛隊を当面は認め「有事の際には活用する」などの見解を積極的に発信。「現実路線」で支持拡大を目指したが、改選議席を割り込み低迷した。反転攻勢を期すが、野党共闘路線は他党から距離を置かれ、道のりは険しい。(金杉貴雄、山口哲人)



14 日、記者会見する共産党の志位委員長＝

国会で

◆参院選、目標に遠く及ばず

就任 22 年となる共産党の志位和夫委員長は 14 日、国会内で記者会見し「どんな困難のもとでも、決して国民を裏切らず、社会進歩の大義を貫く不屈性。党の 100 年を貫く特質だ」と胸を張った。だが、参院選では困難に直面した。

改選は比例代表 5、選挙区 1 の計 6 議席。比例 650 万票、得票率 10%以上の目標を掲げ「5 議席の絶対確保」と選挙区での上積みを目指した。結果は比例が 361 万票余、得票率 6.8%と遠く及ばず、獲得は 3。選挙区と合わせ 4 議席と勢力は後退した。

党は選挙後に強気の総括を出すことも多いが、今回は投票翌日

に中央委員会常任幹部会が「責任を深く痛感する」との声明を出すほどショックを受けていた。

◆綱領を前面に押し出したが…

※2004年全面改定、20年一部改定	安保日米	廃棄し、米軍とその軍事基地を撤退させる
	自衛隊	国民の合意での憲法9条の完全実施(自衛隊の解消)に向かっての前進をはかる
	天皇制	民主共和制の政治体制の実現をはかるべきだとの立場。天皇の制度は憲法上の制度であり、その存廃は、将来、情勢が熟したときに、国民の総意によって解決されるべきもの
	政権構想と社会主義共産主義	現在、日本社会が必要としている変革は、社会主義革命ではなく、資本主義の枠内で可能な民主的改革 現在の反動支配を打破してゆくの役に立つかざり、さしあたって一致できる目標の範囲で統一戦線を形成し、統一戦線の政府をつくる 社会主義的変革の中心は、生産手段の社会化。私有財産が保障される。社会主義的変革は、短期間に一挙におこなわれるものではない。社会主義・共産主義への前進をめざす取り組みは、21世紀の新しい世界的な課題

「共産党の綱領そのものが 1 つの争点だ」。参院選前の 4 月、志位氏は党の憲法ともいえる綱領を前面に押し出した。

背景にはロシアのウクライナ侵攻があった。防衛に対する国民の不安が高まり、党が安全保障政策で「現実的な考えに立っている」と説明しないと、無党派層の支持を得られないとの危機感の裏返しとみられる。

力を入れたのが自衛隊に関する説明だ。共産党は、戦力の不保持などをうたった憲法 9 条と矛盾し、違憲とするが、2000 年に「段階的解消」を打ち出し、当面は認める方針を決定。綱領にも反映させた。

志位氏は「存在する自衛隊を国民のため『活用』するのは当然だ」と実行行使の容認にも踏み込んだ。党はホームページに特設コーナーを設け、志位氏も安保論を説明する小冊子を出版するなど発信を強めた。

◆若者世代の支持獲得に希望

共産党の100年の歩み	1922年	創立。その後、治安維持法で弾圧される
	28年	機関紙「赤旗」創刊
	46年	戦後初の衆院選で5議席獲得
	61年	「資本主義の枠内での民主主義革命」などを明記した党綱領を決定
	82年	不破哲三委員長就任
	98年	参院選比例代表で過去最高の820万票
	2000年	志位和夫委員長就任
16年	参院選の改選1人区で初の「野党共闘」	

だが、自衛隊の活用論には野党からも「一貫していない」(国民民主党)などと疑問の声が上がった。

日米安保条約については綱領に「廃棄」を明記。参院選でも主張を貫いたが、外務省の世論調査(19年度)では日米安保体制を「評価する」が 68.9%に上り、現実路線が十分に浸透しなかった可能性もある。

野党共闘路線も厳しさを増している。16年と 19年の参院選で一定の成果を上げたが、立憲民主党は昨年の衆院選敗北を受けて距離を取り、今回は両党が協力を限定的にとどめた。

共産党は、衆院選では 1979 年に過去最多の 39 議席を獲得し、参院では 98 年に非改選と合わせ 23 議席まで積み上げたが、今はそれぞれ 10 議席と 11 議席。党員数は 90 年の約 50 万人をピークに、現在は 30 万人を割り込んでいる。

志位氏は「党を伸ばすことが野党共闘の力にもなる」と地力を付ける必要性を強調。「青年組織は昨年秋以降、1000 人以上増えた」と若者世代の支持獲得に希望を託した。

共産党きょうで創立 100 年 志位委員長「私たちの立場が大事に」

NHK2022 年 7 月 15 日 5 時 23 分

共産党は、15 日で創立から 100 年を迎えました。

志位委員長は、「共産党だけが国民主権と反戦平和を掲げて戦ってきた」と振り返り「地球規模で貧富の格差が拡大するなかで、私たちの立場が大事になっている」と述べました。

1922 年 7 月 15 日に創立された共産党は 15 日で 100 年を迎えました。

これにあわせて、志位委員長は、NHK のインタビューに応じました。

この中で志位氏は「戦前、共産党だけが国民主権と反戦平和の旗を不屈に掲げて戦った。そして戦後、旧ソ連や中国の干渉をはねのけ、自主独立の立場を確立したことでこんにちがある」とこれまでの歩みを振り返りました。

そして、「いま多くの政党で、ロシアの蛮行に乗じて軍事力の増強などの大合唱となっているが、100 年の歴史にたつて、平和と民主主義を壊す逆流を正面から打ち破ることが党に課せられた重要な任務だ」と述べました。

そのうえで、「21 世紀のいま、地球規模で貧富の格差が拡大し気候危機が深刻化する中、資本主義で良いのかという問いかけが行われている。いよいよ私たちの立場が大事になっている。日本共産党という名前は、今後も大事に使っていきたい」と述べました。

共産 志位委員長 参院選で議席減 “責任痛感 党勢回復に全力”

NHK2022 年 7 月 14 日 18 時 34 分



参議院選挙で議席を減らした共産党の志位委員長は「責任を痛感している」としたうえで、党勢の回復に全力を尽くす考えを強調しました。

共産党の志位委員長は記者会見し、参議院選挙で改選前の 6 議席を下回る 4 議席の獲得にとどまったことについて「比例代表で議席と得票を減らした責任を痛感している」と述べました。

一方で「強い党をつかって次の選挙で勝ち、より中長期を展望して日本の政治をよくしていくことで責任を果たしたい。世代的継承も成功させたい」と述べ、党勢の回復に全力を尽くす考えを強調しました。

また、立憲民主党の泉代表が、今後の国政選挙でも、野党内で候補者一本化の調整を進めていく考えを示したことについて、志位氏は「野党第一党として、共闘の関係を作るうえでのイニシアチブをぜひ発揮してほしい」と述べました。